

## 第 1 回門真市庁舎エリア整備審議会 意見対応表

## 1. 庁舎エリアの現状と条件・役割と位置づけの整理について

No.	話題	意見	対応方針
1	グリーンインフラ	エリアを市庁舎と公園が一体となった新しいグリーンインフラと捉えるともできるのではないか。	グリーンインフラについても一体的に機能を発揮できるよう検討します。
2	次世代に向けた取組	都市全体における役割として、「次世代（子ども）に向けた情報の発信」等を位置づけても良いのではないか。	次世代をターゲットにした取組みを、基本的な考え方に反映します。
3		古川橋駅周辺エリアと門真市駅周辺エリアで機能を分け、連携でつないでいるが、庁舎エリアにおける子育て支援等のあり方についても検討したい。	広場等や庁舎機能における子育て支援等のあり方について検討します。
4	機能再編の方向性	市内各所で展開されるボランティア活動や子どもの教育、中小企業の相談窓口等については、庁舎の再編にあわせ集約されるのか。また、集約される場合、現在の活動場所等の跡地はどうなるのか。	公共施設等の集約については、今後、庁内で連携を図りながら検討します。
5	防災機能	防災機能について、どの範囲を対象としたものか、どのような機能を持つものか、方向性があれば教えていただきたい。	広場については、市内全域の方が避難する等の機能は想定していませんが、災害時は庁舎が災害対策本部となり、総合体育館もその補完機能を担う場所であることから、庁舎や体育館等との連携を意図した防災機能を検討します。
6		発災時の中枢的な機能が市役所に集約されることが想定されるため、鶴見緑地など中長期にわたる拠点との連携も必要である。	災害対策本部として広域との連携を考慮した防災機能を検討します。
7	機能間の相乗効果を生む方策	それぞれのエリアとの相乗効果を高めるためには、公民連携や、プラットフォーム、エリアマネジメントのような仕組みが必要となる。	公民連携やエリアマネジメント等のような仕組みを検討します。

No.	話題	意見	対応方針
8	庁舎エリアの位置づけに係るダイアグラム	次世代を担う子どもたちも大事なので、人を真ん中に描くような図にできればよい。	総合計画におけるまちの将来像「人情味あふれる！笑いのたえないまち門真」も踏まえ、人や次世代を真ん中に描く表現を検討します。
9		「外部への発信」とあるが、「外部」の意味が曖昧であるため、書き振りを修正されたい。	「市外への発信」とします。
10		「魅力の集約」「魅力の発信」とあるが、「魅力」だけで良いのか。 また、「連携」などを表現する拠点間の矢印については、この意味を精査する必要がある。	「魅力」に限定することなく、様々な要素を包含した表現を検討します。「連携」は、人の連携や情報の連携、施設の連携など、多様な要素が含まれ、庁舎や広場等に導入する機能によってその意味も変わります。そのため、庁舎・広場等の機能の検討を経た上で、改めてその意味を定義したいと考えます。
11		市民が夢を持てるよう、市庁舎を中心に、古川橋駅周辺、門真市駅周辺が連携することで、何が起り、どのように波及し、各地域とどのような連携ができるのかがわかる表現とされたい。	古川橋駅周辺、門真市駅周辺との連携のあり方は本構想においても非常に重要であると考えており、その展開・ストーリーが見える形を検討します。
12		子どもたちの学びは学校外にもたくさんある。これからの門真市の発展に対して元気な次世代が育つようなイベントや活動など、日常的な関り方について、表に見えるようなデザインとし、より魅力が伝わればよいのではないか。	基本構想に掲載する表等については、より魅力が伝わるような表現を検討します。
13	審議会の到達目標	4回の会議でどのあたりまで進めるのか。	本構想では、庁舎エリアにおけるまちづくりの大枠の方向性を決めていきたいと考えています。本構想に基づき、次年度以降、基本計画や設計など、具体的な整備の内容を検討していく予定です。

No.	話題	意見	対応方針
14	目標の設定	庁舎整備によりどれだけの収益性が上がるのかといった客観的な数値目標などは、示さないのか。	構想段階での具体的な数値目標の設定は難しいものと考えていますが、今後進めていくなかで、たとえば、環境性能や耐震性能など数値目標を示せるものについては提示していく予定です。
15		波及効果のようなものをどう考えていくかということも含めて、継続してこの場でも検討できればと考える。	連携を重視していることから、波及効果も重要な観点と考えています。構想段階での具体的な数値目標の設定は難しいですが、どのような波及効果を創出するかについて議論を深めていきたいと考えています。

## 2. 話題提供（橋爪委員）

No.	話題	意見	対応方針（案）
16	担うべき公共性	シビックゾーンにおいて、どのような公共性を担うべきかについて検討すべき。	庁舎機能が位置することから行政機能としての公共性が中心にありますが、より開かれた場としての公共性、公民連携の中での公共性など、多様な公共性を担うべき場所としての位置づけを検討します。
17	防災広場のあり方	被災時、携帯電話を如何に充電するか、如何に情報提供・連絡手段を確保するなど、次世代の防災広場のあり方を考える必要がある。	最先端の技術等を加味した防災機能を検討します。
18	ウェルビーイングの体現	市民等がどのような場所で時間を消費するかを考え、門真独特のウェルビーイングを体現する広場の平時の活用を検討すべき。	ウェルビーイングの観点も踏まえた広場のあり方を検討します。
19	公民連携手法	エリアでの機能連携や「門真方式」とも呼べる新しい公民連携の仕方を考える必要がある。	機能連携や公民連携について検討します。
20	象徴的なデザイン	京阪電車から見えるエリアであるため、パブリックな拠点があることがわかるようなデザインが必要である。	景観面において、車窓から見える視点も加味して検討します。
21	魅力の集約・発信	貸ギャラリーや貸スペース、産業も含め都市の魅力を集めることができる機能を検討すべきである。	重要なコンテンツとして庁舎もしくは広場等での機能配置を検討します。

No.	話題	意見	対応方針（案）
22	市民の誇りとなる場所づくり	偉人の顕彰など、門真市民の誇りとなるような場所としてのあり方を考えていければ。	庁舎機能の中であり方を検討します。
23	構想策定のプロセス	構想立案の過程を市民に最大限情報公開しながら進めるようにしたい。	市ホームページや広報等を活用し、積極的な情報公開に努めます。

### 3. 庁舎エリアの基本的な考え方と整備検討事項について

No.	話題	ご意見・ご質問	対応方針
24	緑豊かな空間づくり	シビックゾーンという位置づけを「緑豊かなシビックゾーン」に戻したい。	緑豊かなゾーン形成について検討します。 量だけに捉われない緑のあり方、利活用や防災機能などと調和した緑のあり方を検討します。
25		緑のあり方は木の数を増やすということではなくて、多様な方法をもって、庁舎そのものや駐車場も含めて緑のある空間を考えていく必要がある。	
26	空間構成	広場エリアや、庁舎エリアに区分するのではなく、一体的な屋外空間、オープンスペースとして利用でき、庁舎のグランドレベル、低層部の機能も屋外と一体的に使えることが重要である。	エリア全体を広場として捉え、その中に庁舎等が位置する考え方を検討します。
27	プロセスデザイン	庁舎エリア整備までのプロセスのプランや、建てた後にどのように使われるかというマネジメントのプランも構想の中に織り込まれることが重要である。また、準備段階から市民を巻き込んで、積極的にいろいろなプロジェクト、活動を作っていくと良い。	整備後のマネジメントのあり方について検討します。また、準備段階から市民や事業者に参加いただけるよう検討します。

No.	話題	ご意見・ご質問	対応方針
28		資料6の1ページ目、「(1) 多様な利用を促す開かれた拠点」と「(2) 新たな働き方と公民連携」は一緒になった方が良い。	(1)では市民等も含めた誰でもアクセスできる開かれた場所としての考え方、(2)では庁舎を基点に新しい連携や働き方を展開する考え方を示しており、相互に連携しつつも別方針としたいと考えます。
29	公物管理	広場の機能を発揮させるためには、公物管理の手法が重要となる。 条例広場という形で独自のルールを定める方法や、行政財産のままあるいは庁舎に付帯する施設として運用していく方法などがあり、公物管理のあり方を検討されたい。	広場の公物管理のあり方について検討します。
30	市庁舎の機能配置	窓口機能と執務機能と議会をどう配置するかで庁舎のパターンは大きく変わるため、検討が必要。議場を閉会時に別の利用に供する場合は下層階にあった方が良い。また、執務機能は、基本的に大きなワンフロアとし、部署間で気軽に議論ができる環境は非常に重要であり、検討すべき。	庁舎の計画において、検討します。
31	ウォークブルの実現に向けて	ウォークブルを実現していくためには、周辺エリアと繋がること、エリアのなかをスムーズに歩けるプランとすることが重要である。	古川橋駅周辺、門真市駅周辺との連携のあり方は本構想においても非常に重要であると考えており、ウォークブルの観点からも、その展開・ストーリーが見える形を検討します。
32		ウォークブルの実現に向けては、線路沿いの道路のあり方と併せて、高架下のあり方についても、最新の事例などを参考にしながら議論したい。	
33	事業スケジュール	ファミリー層が増えてくると思われるなかで、いつできるのか、どのくらいの期間で門真が変わろうとしているのかが明確になると、他市から来られる方の検討材料となる。	全体のスケジュールについては、庁内でも検討を進めています。 審議会では、第4回で全体の事業手法やスケジュールについても検討いただきたいと考えており、基本構想で目標となるスケジュールを公表する予定です。

No.	話題	ご意見・ご質問	対応方針
34	広場のあり方	広場と公園については、この地域の気候環境に適した、使いやすい広場のあり方について、市民と継続的にコミュニケーションしながら、つくりあげていくべき。	使いやすい広場のあり方について、検討段階から市民に参画していただけるよう検討します。
35	執務環境	クリエイティブな働き方の実現に向けては、民間と新しいことに取り組むことと合わせ、レイアウトを工夫しコミュニケーションの円滑化を図ることで、業務ロスをなくし、職員の負荷を低減することも大事。	職員の業務効率化につながるレイアウトを検討します。